

研究紀要 8 5 算数科における子どもの自己評価能力を育成する指導法の研究

濱田 嘉昭（上野市立神戸小学校）

山口 真也（大宮町立七保第一小学校）

山口 知也（四日市市立塩浜小学校）

中村 秀文（三重県総合教育センター）

中村 純司（三重県総合教育センター）

1 研究の趣旨

中教審答申の「生きる力」というキーワードで示されるような“自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力”を育成するために、自己評価に着目し、自己評価の働き、意義等について考察する。そして、子どもの自己評価能力を育成するための指導法に関する研究仮説を設定し、2・4・6年の授業実践を通して、その妥当性を検証していく。

2 研究の内容

(1)本研究で考える自己評価

本研究では「子どもが自己評価を行う一連の自己評価活動の過程そのものに教育的な価値を求める」ということを基本的な考え方とし、子どもの学びの自立と主体性を育むことをねらっている。そして、子どもに自己評価を行わせる中で「今まで学習してきたことを調整したり、新しい場面に応用したりする力」を育成していこうとするものである。

(2)自己評価能力育成のための指導法

子どもの自己評価能力を育成するためには、子どもに適切な自己評価を行わせたり、教師が子どもの自己評価を生かしていったりすることが必要である。そこで、算数科の授業において、子どもの自己評価能力を育成するための意識化、焦点化する2つの活動をあげ、研究仮説とする。

自分の考えを発言することを通して

子どものつぶやきや話し合いの中での発言などから、子どもの考えを取り上げ、板書などすることで、子どもに考えを意識化・対象化させることができ、自己評価能力を育成することができる。

書くことを通して

学年に応じた方法で、ノートやプリントなどに、自己評価に関する記述をさせることにより、子どもに考えを意識化・対象化させることができ、自己評価能力を育成していくことができる。

(3)自己評価能力を育成する各学年の実践

【2年生】「たすのかな ひくのかな」

（発言）学習課題に対する思いや考えを発言、友だちの発言につなげた発言

（書く）「ふき出し」形式での学習課題や自分の解決に対する思いや考えの記述、振り返りの記述

【4年生】「うまく分けられるかな（問題の考え方）」

（発言）課題に対する考えをはっきりさせた発言、友だちの考えと照らし合わせた発言

（書く）自分の考えのノートへの記述、問題解決後のわかったことの記述

【6年生】「分数、小数の計算」

（発言）問題に対する自分の思いの発表、何人かの子どもによる「リレー説明」

（書く）学習日記、授業後の振り返りの記述、授業中の友だちの発言に対する考えの記述

3 研究のまとめ

研究仮説に基づく取り組みの結果、主体的な学習ができるようになった、友だちの意見につなげた発言ができるようになった、書くことに抵抗を感じずに振り返りを書けるようになった等の成果があった。

一方、他教科での自己評価能力育成をどのようにするか、自己評価能力育成と関連させた発言の指導をどのように行っていくか、年間計画の中でどのように自己評価をさせていくか等の課題が残った。